

令和7年度 第1回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議議事録

日時：令和7年7月31日（木）19：00～21：10

場所：白石町役場 3階大会議室

1. 開会【進行：総合戦略課長】

2. 委嘱状交付

3. 会長あいさつ

○会長

皆さんこんばんは。皆様方には、本日は大変暑い中、また昼間のお仕事等でお疲れの中に、白石町まち・ひと・しごと創生推進会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、今年度から新しく委員になられた方には、この推進会議の委員をお引き受けいただきましたことに対しまして、重ねてお礼を申し上げるところでございます。ありがとうございます。この会議の趣旨でございますけども、東京一極集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくために取り組んでいくというものでございます。本町では、今年3月に第3期白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定いたしまして、各種人口減少対策に取り組んでいるところでございます。

また、本町では、戦略的なシティプロモーションにも力を入れ、白石町を売り出していくための広報戦略を策定いたしました。皆様もご存知かと思いますが、『しろめし町しろいし町』というメッセージでございます。このメッセージの中には、町内外の方が白石町に対して抱くイメージに一貫性を持たせるためにブランドメッセージを盛り込んでおりまして、今後、全国、また海外に向けて、白石を力強く打ち出していくということとしております。私達が住む白石町の様々な魅力を積極的に発信し、活力ある持続可能なまちを目指していきたいと考えておりますので、どうぞ皆様方にも今後ますますのご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

冒頭にありましたように、本日の会議は第2期総合戦略の最終年度の実施状況と、最終的な内部評価、効果検証等を行うこととしております。またその結果につきましては、今年度からの第3期総合戦略に反映をしていくということとなります。どうか、委員の皆様方の忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日は大変ご苦勞様でございます。よろしくお願い申し上げます。

4. 委員の紹介

5. 町担当職員の紹介

6. 白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱について

○総合戦略課白石創生推進係長

それでは設置要綱について説明をさせていただきます。本日の白石町まち・ひと・しごと創生推進会議は、この設置要綱に基づき開催をしております。第1条に規定をしておりますとおり、総合戦略の策定及び推進に当たって、広く関係者の意見を反映させるために設置しています。第2条は、この推進会議において審議する事項を定めています。第3条、推進会議は委員20人以内をもって組織することとなっており、資料1のとおり14人の方に委員を委嘱しております。第4条、委員の任期は3年です。現在の任期は、令和5年度から令和7年度末までの3年間ですが、役職交代などにより委員に変更があった場合の後任の方につきましては、前任者の残任期間をお願いすることとなります。第5条、この会議の会長は白石町副町長を持って充てます。第6条、会議は会長が招集し、その議長となります。第7条、会議の庶務は、総合戦略課で行います。要綱と役割の役割についての説明は以上となります。

7. 協議事項

○総合戦略課長

それでは次第7協議事項に入ります。ここからは百武会長の方に会議の議長をお願いいたします。

○会長

それではこれからの進行は私の方で務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。初めて委員になられた方がいらっしゃいますので、協議事項に入る前にまず、総合戦略のことについて、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○総合戦略課白石創生推進係長

冒頭課長から説明があったように、今回皆様には、令和2年度から令和6年度までの第2期まち・ひと・しごと総合戦略の最終評価をしていただきますが、この総合戦略の説明については、委員の皆様の評価をもとに、令和7年3月に新たに策定した現行の第3期総合戦略を資料として説明をさせていただきます。総合戦略の策定は、まち・ひと・しごと創生法に基づいています。少子高齢化への対応、人口減少の歯止め、東京圏への人口集中の是正といった課題に対応するためのものとなります。まず、総合戦略の総合戦略の1ページをご覧ください。はじめに、1趣旨のところです。白石町の人口は、毎年減少を続けており、今後も減少が見込まれています。特に若い世代から選ばれるまちづくりが喫緊の課題です。このため、本町では、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、白石町人口ビジョンにおける人口の将来展

望等を踏まえ、平成 27 年度～令和元年度までを第 1 期、令和 2 年度～令和 6 年度までを第 2 期とした白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少が地域経済を縮小させ、さらに人口減少を加速させる負のスパイラル（悪循環の連鎖）の克服と地方創生に取り組んでおります。また、この白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、白石町総合計画の人口問題等に関する個別計画となっており、下に図がありますけれども、黄色の箇所が総合戦略の位置づけとなります。2 ページをご覧ください。

2 の総合戦略の計画期間ですが、この第 3 期の計画期間は令和 7 年度から 10 年度までの 4 年間となっております。3 ページをご覧ください。4、総合戦略の体系図になります。ページ右半分にオレンジ色で基本目標①、②、③、④とあります。白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、この 4 つの基本目標を設定し、その具体的な施策に取り組むことで、白石町人口ビジョンの将来展望の達成に努めます。この目標に基づいて、左の緑色で囲ってある白石町人口ビジョンの将来展望の達成を目指していくこととなっています。具体的には、緑色のⅡ、人口の将来展望ですが、1 つ目が人口減少を悲観せずに様々な施策により人口減少のスピードを抑える。2 つ目に、本町の目標人口を 2030 年には 19,513 人、2065 年には 11,791 人とする。これが現在の目標となっております。ここで白石町人口ビジョンと書かれた冊子の 14 ページをご覧ください。こちらは令和 7 年 3 月に改訂した白石町人口ビジョンにおける将来の人口推計です。こちらの表における推計人口については、2030 年は 18,993 人、2065 年は 8,014 人となっているのが見て取れるかと思います。資料 15 ページをご覧ください。このままいくとそうすると予想される人口を、様々な施策を行うことで毎年 100 人ずつの人口を取り戻し人口の減少速度を緩めていき、総合戦略にも掲載している 2030 年 19,513 人、2065 年 11,791 人を目指していきます。資料戻りまして、総合戦略の 9 ページをご覧ください。四角の中の 4 行目になります。各基本目標における数値目標や重要業績評価指標（KPI）は、白石町まちひとしごと創生総合戦略における具体的な施策の実行により達成すべき目標を記載しています。したがって、民間企業や個人による雇用など、町で把握できないものは対象外とするとしています。そういったことで、これから説明をいたします実施状況の数値は、総合戦略に基づく事業が対象ということになります。10 ページ以降が、基本目標ごとの数値目標や、めざすべき方向、具体的な施策と KPI となります。詳しくは後ほどご覧いただければと思います。繰り返しになりますが、この第 3 期総合戦略は令和 7 年 3 月に策定し、令和 10 年度までの 4 か年の計画となります。本日評価いただくのは第 2 期のものとなりますが、その評価を今後の第 3 期の改訂等を考えていく際の参考とさせていただくこととなります。以上で総合戦略の説明を終わります。

○会長

それでは協議事項に入っていきたいと思います。(1)第 2 期総合戦略の実施状況についてと、(2)第 2 期総合戦略の内部評価について合わせて協議したいと思います。資料は A3 の資料 3 と資料 4 となります。ページが多くなっておりますので、①から④の基本目標ごとに区切って確認をしていきたいと思います。まず、基本目標①本気！やる気！元気！しろいし！については資料 3、4 とともに 1 ページから 4 ページまでとなって

おります。事務局から説明をお願いします。

○総合戦略課白石創生推進係主事

まず、基本目標①の1企業誘致や起業等による雇用の確保、についてです。KPIの1つ目は、出店数です。5年間で、起業による出店数3店の目標に対し、令和6年度実績はゼロ、5年間の合計は1店です。KPIの2つ目は、企業を誘致するための候補地の確保です。5年間で1か所の目標に対し、令和6年度実績ゼロ、5年間の合計もゼロとなっております。次に具体的な施策についてです。令和6年度事業実績と担当による5年間の内部評価を説明します。施策(1)働く人たちにやさしい空間づくり。事業実績は、白石町地域商業活性化支援事業の一環として、公募を2回実施しました。問い合わせは数件あるものの、申請には至っておりませんが、うち1件は令和7年度申請に向けた申請支援中です。内部評価は、申請実績がなかった為、あまり進捗していないとしています。今後の方針は、事業の継続としています。問合せや相談は毎年あっている為、引き続き商工会と連携しながら支援を行っていきます。施策(2)企業誘致するための候補地の確保。事業実績は、企業の受け皿となる用地の確保については、小学校統廃合による跡地利活用を公共施設等マネジメント推進検討委員会において優先順位を決め検討を行っています。企業誘致の推進では、本町に進出を検討している企業へ物件の斡旋等を行い、令和6年10月にIT系企業と進出協定を締結、令和7年度中に創業開始を目指します。また製造業企業と交渉を行っており、令和7年度中に進出協定締結を行う予定です。内部評価は、合計3社の誘致調整・支援を行ったことにより進捗しているとします。今後の方針は、事業の継続としています。創業に向け起業支援を継続していきます。

次に、2ページをご覧ください。基本目標①-2新規就農者及び農業後継者の育成・確保、についてです。KPIの1つ目は、新規農業従事者数です。5年間で125人の目標に対し、令和6年度は22人、5年間の合計は109人です。KPIの2つ目は、しろいし農業塾卒業者の農業従事者数です。5年間で15人の目標に対し、令和6年度実績は2人、5年間の合計は5人です。こちらの農業塾生は県外から移住された方が対象となっております。KPIの3つ目は、農業従事者（被雇用者）数です。5年間で25人の目標に対し、令和6年度が2人、5年間の合計は7人です。こちらの人数は、町内農業法人への新規被雇用者で、実績は町が把握している人数となっております。次に具体的な施策についてです。施策(1)新規就農者の確保及び支援。事業実績は、新規就農者の確保及び支援として、各種セミナーや研修会などを実施しました。内部評価は、セミナーについては室内での説明と現場見学を組み合わせる事で、より分かりやすく周知が図れ、給付金に関しては経営技術、農地関係、資金などそれぞれの担当機関がアドバイスを実施できた為、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としています。今後も関係組織と連携を取り、セミナー開催の継続と給付金受給者に対してアドバイスや指導を行っていきます。施策(2)しろいし農業塾。事業実績は、いちごトレーニングファームでは6名の研修生にいちごの栽培技術の研修を行っております。内部評価は、東京、大阪、福岡等の都市部で募集した結果、定員の3名を超える4名の応募があった為、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としてい

ます。今後も関係組織と連携を取りながら定員以上の応募を目標に募集活動に取り組めます。施策(3)農業従事者（被雇用者）確保対策。事業実績は、雇用就農資金を活用し、2人の実績がありました。内部評価は、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としています。今後も事業推進の為、町の窓口として周知していきます。

次に3ページをご覧ください。基本目標①-3 新しいことへ挑戦する人への積極支援、についてです。KPIの1つ目、企業・創業者数です。5年間で3人の目標に対し、令和6年度は3人、5年間の合計は28人です。KPIの2つ目は、璃の香作付農家数です。5年間で3戸の目標に対し、令和6年度は6戸、5年間の合計は50戸です。次に具体的な施策についてです。施策(1)白石町創業者支援制度。事業実績は、商工会と連携し創業塾を開催しました。商工観光課窓口だけでなく、商工会と連携した支援を行うことで実績に繋がっております。内部評価は、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としています。目標は達成していますが、町内の事業所数は年々減少しており、引き続き創業希望者への支援は必要としています。施策(2)新規農産物の作付け拡大事業。実績は、璃の香については、平野部で23本の試験栽培を行っています。販路拡大のため、県内外の飲食店13店舗に提供をしています。また、苗木購入者に対し購入補助を行いました。ナナシキブについては、作付面積8.7ha、作付拡大者2名となっています。内部評価は、苗木購入補助を実施できたため1,700本以上の植樹ができ、今後も収穫量の増大を見込み、進捗しているとしています。今後の方針は、更に発展させるとしています。作付拡大の推進、販路開拓、商標登録後の名称で璃の香のブランド化を推進していきます。施策(3)商工業者などへの支援。事業実績は、商工会と連携し事業者の新商品開発に向けて試食やアンケート調査を実施することで、商品のさらなるブラッシュアップや新たなお土産品の開発につなげることができました。また販路拡大を希望する6事業者に対し商談会参加への支援を行いました。内部評価は、商工会と連携し新商品開発や新たな販売促進に取り組む商工業者への支援を行うことができた為、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としています。多様化する消費者ニーズ、変化する社会経済環境において、新しいことへ挑戦する商工業者への支援は必要不可欠としています。

次に4ページをご覧ください。基本目標①-4 ふるさとで活躍する人材の育成、についてです。KPIは、企業等と学校が連携する取組みの数です。目標は5年間で20回としています。令和6年度の新規実績は0回、5年間の合計は14回です。各年度の実績数値は、新規に行ったものを計上しています。次に具体的な施策についてです。施策(1)ふるさと学の推進。事業実績は、職場体験学習については63事業所で187名の学生が体験学習をされました。内部評価は、進捗しているとしています。職場体験学習により地域理解、地域貢献、働くことについて自分の考えを見つめるよい機会となっている為です。今後の方針は、事業の継続としています。引き続き、学校と連携して活動の機会を拡げていきます。施策(2)地元定着の促進。事業実績は、白石高校と佐賀農業高校に対しがんばる高校生交付金での事業支援を行っています。また若年者の地域愛と起業マインドの醸成を図ることを目的とした放課後起業クラブでは、肥前白石

駅にクリエイターの作品を展示し美術館化しました。資金はふるさと納税型クラウドファンディングにて募りました。内部評価は、継続的に高校生と連携した活動できているため、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続としています。引き続き高校生との連携した活動の機会を拡げていきます。基本目標1についての説明は以上となります。

○会長

基本目標①についての説明でございました。ただいまの説明についてご質問等願ひしたいと思ひます。どんなことでも結構ですので願ひします。

○委員

1 ページの KPI の出店数が 5 年間で 3 店舗とありますが、どういったものを出店として目標と掲げておられるのか教えていただければと思ひます。

○商工観光課長

町内に 7 か所ほど地域活性化事業の指定商店街があり、この事業を活用して指定商店街に出店される数の目標を 3 店舗としています。

○委員

質問ではなく意見ですが、「“ふるさと学”の推進」のところでは、企業等と学校が連携する取組みの数ということで、目標など挙げられています。現在当社でも、武雄市の方で学校と連携し、プログラミングの教室や、子どもたちがロボットを使って地域課題を解決しようというような取り組みもやっていますので、ご紹介がてら発言させていただきます。よろしくお願いします。

○会長

ありがとうございます。ただいまのことについては学校教育課の参考にして下さい。ありがとうございます。

○委員

私も金融機関としても、地元の白石高校、佐賀農業高校に関して、武雄、鹿島地区の各支店でお取引をいただいている地元の企業さんと、就職活動を担当されている先生と直接お話をする機会を何度か設けさせていただいて、高卒の学生さんを地元の企業に就職していただくということで、5 月に対面でお話をさせていただきました。金融機関としても、何かしらお手伝いができるような形で活動は行っておりますので、一応お話させていただきました。よろしくお願いします。

○総合戦略課長

大変有効な情報ありがとうございます。地元定着の促進ということで目標に掲げておりますので、そういった雇用面での産官学の連携というのは非常に重要なことだと思います。そういった動きも活用させていただいて地元定着に努めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

ます。

○委員

住みたいと思ってもらえるまち、子どもたちと引っ越してでも移住をしたいと思ってもらえるまちづくりのために何ができるかというのを常日頃考えているのですが、アメリカでよくある子供たちの起業家育成プログラムの「アントレプレナートレーニング」が日本にも入ってきていて、新しい習い事として少しずつ注目を集めています。習い事としては非常に費用が高くて、裕福な家庭のお子様方が通いやすい新しいスタイルの習い事として広まりつつありますが、アメリカでは一般的によく子供たちが庭先でレモネードを自分たちで作って販売をして、その資金を学校の運営資金に回すっていう取り組みがあります。町で白石町のレモンとレモネードスタンドを掛け合わせて、習い事としてではなく、町の取り組みで小さい頃から西洋的なビジネスにプラスして、日本人としての精神の部分も合わせたような取り組みができれば、白石町ならではの教育として何か魅力として、新しいものが生まれて発信できるのではないかなど。最近私の中でのキーワードとして意識しているいろいろリサーチしていた部分でもありましたので、個人でするのは非常にいろいろエネルギーとお金もいるので、白石町でやっていただけたらと思います。

○会長

これは高校生に特化したという話でもないわけですかね。

○委員

ですね。小学生からですね。

関連させてお話をさせていただきますと、お声がけをいただいて今鹿島市のカフェ運営をさせていただいています。鹿島高校でしか食べられなかった三角パンというものがあるそうで、それが後継者問題でなくなっているそうです。それで鹿島高校の食品調理科の生徒さんと先生方が明日カフェにいらっしゃって、ここで販売をしてくださいということで、生徒さんがプレゼンテーションをされるということです。経営者が私の主人の外国人なので、生徒さんは英語でも少しプレゼンをするということで、そこに向けて一点集中で色々なものを用意したり英語の準備をしたりっていうことで、非常に意識づけと知識であったり、プレゼンの練習であったりっていうのができるということでとてもいいなと。鹿島でやっているのも、とてもうらやましいのと悔しいので。ぜひ白石町でもできたらいいなというところで、高校生からがやりやすいですが、習い事としては小学生からの習い事として日本でも広まりつつあるところですよ。

○総合戦略課長

ありがとうございます。まず璃の香ですね。特産品として白石町に璃の香がありますので、佐賀農業高校の生徒でレモネードスタンド活動をやっていただいて、役場の方でも取り組みの活動とか発表いただいて、私達も特産品を使っていただいてありがとうございますという気持ちで非常に感銘を受けたところでございます。そして、実はですね、

総合戦略課の所管の方でも、放課後起業クラブという活動を一昨年から行っておりまして、何とか肥前白石駅を盛り上げたいという取り組みをしております。これは佐賀農業高校、白石高校、鹿島高校そしてデザインがありましたので、有田工業高校の生徒ほか10数名のチームで活動していただいています。実はクラウドファンディングを行って63万円ほど集まりまして、自走できるような活動になってまいりました。この活動では、クリエイターの作品を肥前白石駅に展示・販売するなどの取り組みを行ってきたところです。先ほど委員がおっしゃいましたアントレプレナートレーニングは、海外の方では非常に活用されているようでございます。ここはもう高校生だけでなく、少しばかり枠を広げて取り組むというような方向性もうちの方で取り組んでいくという方向性もあるのかなと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

○会長

次が基本目標②来たか！住みたか！よかところ！しろいし！です。資料については資料3、ともに5ページから7ページまでとなります。説明をお願いします。

○総合戦略課白石創生推進係主事

基本目標②-1 白石町の魅力発信についてです。KPIは町ホームページアクセス件数です。目標は令和6年度年間528,000件であるのに対し、令和6年度は年間839,551件の実績となっております。次に具体的な施策についてです。施策(1)道の駅運営支援。事業実績は、道の駅情報発信コーナーを活用し、観光パンフレットの配置のほか、季節に合わせた町内観光情報の紹介を行っています。またデジタルサイネージを活用し町内各所の紹介動画を流しました。内部評価は、道の駅の来訪者が開業以来増加傾向にあるため、一定の進捗があるとしています。今後の方針は、更に発展させるとしています。今後は、道の駅来訪者を町内へ周遊させるような取り組みも必要となってくるとしています。施策(2)がばいよかところ発信事業。事業実績は、ブランドメッセージ及び広報戦略を策定しました。またホームページのアクセス数が大きく伸びました。積極的行った町公式LINEでの情報発信によるアクセス増加が大きかったと考えられます。内部評価は、一定の進捗があるとしています。SNSを活用した情報発信によるホームページへのアクセス数の増加。令和6年度は合併20周年を記念した町勢要覧の作成。情報発信力強化を目的に広報戦略の策定ができたためです。商工観光課としては、令和3年度で北部九州プロモーション事業が事業終了したため、令和4年度以降は町が主体となる事業実績はありません。今後の方針は、事業内容の見直し(改善)としています。広報戦略にもとづき、統一したルールのもとで効率的に情報発信を行うべきと考えています。施策(3)関係人口の拡大。事業実績は、令和6年度は関西佐賀県人会、関西福富会、東京白石ふるさと会への参加。白石高校生及び佐賀農業高校生と行事やイベントを通じて継続的な関わりがあります。内部評価は、進捗しているとしています。今後の方針は、事業の継続とし、引き続き在京ふるさと会開催を支援し関係人口の創出を目指します。

次に6ページをご覧ください。基本目標②-2 定住促進、移住支援についてです。

KPI の 1 つ目は空き家・空き地バンク登録件数です。5 年間で 40 件の目標に対し、令和 6 年度は 17 件、5 年間の合計は 67 件です。KPI の 2 つ目は、移住・定住者数です。目標は 5 年間で 650 人です。令和 6 年度の実績は 174 人、5 年間の合計は 377 人となっております。次に具体的な施策についてです。施策(1)空き家・空き地バンク、お試し移住。事業実績は、空き家・空き地バンク事業に 17 件が登録され、5 件の物件が有効利用されました。登録物件数を増やす為、町広報誌等で事業の周知を行いました。内部評価は、継続的な情報発信や出前講座を実施したことにより、一定の進捗があるとしています。今後の方針は、事業の継続としています。空き家対策・移住定住の推進のため継続した事業推進を行います。施策(2)JR 通学者・通勤者の利便性向上。事業実績は、上下分離方式により管理移管された佐賀・長崎鉄道管理センターと肥前白石駅周辺の混雑解消や利用者の休憩室等の利活用について、周辺整備を目的に令和 6 年度では基本計画の策定を行いました。内部評価は、進捗しているとしています。県や関係機関との協議により駅周辺整備の実施に向けた基本計画の策定に至った為です。今後の方針は、事業の継続としています。今後、基本計画を基に県や関係機関と駅周辺整備の実施に向け協議を継続します。施策(3)生活排水処理施設の促進。事業実績は、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽設置整備事業を実施しています。内部評価は、進捗しているとしています。特定環境保全公共下水道及び農業集落排水機能強化事業については、計画どおり完了することができた。浄化槽設置整備事業は、昨年を上回る件数の補助を行うことができたためです。今後の方針は、事業の継続としています。公共用水域の水質保全、生活環境の改善を図るため継続していきます。施策(4)住宅取得者への支援。事業実績は、ずっと住まいる応援事業補助金に関して、新築（土地購入有）15 件 15,000,000 円、新築（土地購入無）17 件 8,500,000 円、建売中古 4 件 3,520,000 円、合計 36 件 27,020,000 円です。内部評価は、進捗しているとしています。事業開始後、継続的に HP や広報誌、SNS、情報誌など幅広く掲載したことにより情報が定着し申請数が増加したと考えるためです。今後の方針は、事業の継続とし、重要項目である人口減少を抑制するため、引き続き継続します。施策(5)移住者への支援。事業実績は、東京圏在住者移住支援金 1 件、さが暮らしスタート支援事業 6 件の申請です。内部評価は、随時問い合わせがあっているため一定の進捗があるとしています。今後の方針は、事業の継続としています。さが暮らしスタート支援事業については、令和 6 年度までの事業となり、その後継事業について周知していきます。次に 7 ページをご覧ください。基本目標②-3 地域観光資源の再発見についてです。KPI の 1 つ目は、観光入込客数です。目標は令和 6 年年間目標で 386,600 人に対して、令和 6 年実績は 908,267 人です。KPI の 2 つ目は、観光ルート数です。目標は 5 年間で 3 本です。令和 6 年度時点のルート総数は 9 本となっております。次に具体的な施策についてです。施策(1)多様な観光体験の充実。事業実績は、「しろいし緑の芸術祭」の関連企画として、「Farmers Table 最後の授業」を開催しました。また町内周遊促進としてスタンプラリーやフォトコンテストを実施しました。内部評価は、一定の進捗があるとしています。「生産者の町から生産者とともに生きる食と観光とアートの町へ」をテーマに緑の芸術祭、農漁村体験ツーリズムの開催でき

た為です。令和4年度から取り組んでいる体験型民泊については、令和7年度に実施予定としています。こちら今年度5月に実施されました。今後の方針はその他とし、今後しろいし町観光協会で、デジタルマップや体験事業等の実施を予定されています。施策(2)文化財の再発見。事業実績は、須古城跡の史跡指定に向け、発掘調査、遺構測量、遺物図化測量を有識者会議、文化庁、県の指導を受け実施。発掘調査現地説明会では49名の参加、須古城跡出前講座等については、各団体に対し15回、延べ640名の参加がありました。内部評価は、須古城跡史跡指定に向け予定通り進捗している為一定の進捗があるとしています。今後の方針は、事業の継続としています。施策(3)交通手段の拡充(観光客の利便性の向上)。事業実績は、シェアサイクルの運営会社が撤退されたため、現在シェアサイクルは行っていないです。内部評価は、進捗していないとしています。今後の方針は、事業内容の見直し(改善)とし、JR駅を利用した観光客が町内を観光できるような周遊方法を検討する必要があるとしています。施策(4)白石町観光振興基本計画による事業の実施。事業実績は、観光推進協議会の開催。白石町観光振興基本計画のアクションプログラムのひとつである農漁村体験ツーリズムについては、受け入れ家庭を募集し説明会を実施しました。内部評価は、一定の進捗があるとしています。今後の方針は、事業内容の見直し(改善)とし、令和7年度は白石町観光振興基本計画の改定時期となっている。今までの取り組みを踏まえながら新たな計画の策定に向けて協議していきます。基本目標2についての説明は以上となります。

○会長

ただいま基本目標②についての説明でございました。ご質問等をお願いしたいと思います。

○委員

ホームページアクセス数というKPIは、全てのアクセス数でしょうか？それとも来たか！住みたか！よかところ！しろいし！というテーマに対するアクセスでしょうか？例えばそれをこの中に白石町民が申請をしたくてアクセスしたような場合もカウントされているのかお聞きしたいです。

○総務課長

すべてのアクセス数です。

○委員

となると、ちょっとおかしいですね。ターゲットとしてここに書いてあるのは、基本目標に対するホームページアクセス数ではないということですね。これに来たか！住みたか！よかところ！しろいし！に関すること以外もカウントされているのであれば、それはちょっと公表できない数字ではないかと私は思います。

○総務課長

確かにページの分析も可能ではありますが、この数字に関してはすべてのアクセス

数を挙げさせていただいております。

○総合戦略課長

例えばホームページにアクセスがあったとしても、例えば災害時にアクセス数が伸びるようなことでは目標にコミットしたものではないのではないかということですよね。アクセス数の中身の解析ができるのであれば、そういった方向性の KPI というのも今後考えていくという方向でよろしいでしょうか？

○委員

ログを見れば全部解析できますので、そこは分類した方がいいかなと思います。

○委員

7 ページの KPI の設定のところの観光入込客数という定義を教えていただければと思います。

○商工観光課長

令和 5 年度の数字までは、道の駅のレジ通過者数×2.5 倍としておりました。令和 6 年度からは観光協会が設立したことに伴い、「おでかけウォッチャー」のデータを活用できるようになっております。スマートフォンの GPS です。その人流データで作成しています。

○委員

交通手段の拡充というところで、私も白石町に来てそんなに経ちませんが、車で白石町に来たときには道の駅までは大体ここに書いてあるように行きますが、その後町内を周遊するかって言われると、正直道の駅で止まっているような感じがします。でも、町の中には少し上とか縫の池とか歌垣公園ですごく素晴らしい観光地がありまして、そこを観光客の方に知っていただくというふうなところと繋がってくると思います。書いてあるシェアサイクルがなかなか厳しかったとありましたが、逆に JR を利用した観光客にどうやって町内を周遊してもらうかということについて、具体的に今の段階で何かしら具体案というか、そういうものはございますか？

○商工観光課長

第 2 期総合戦略を策定した時期は、JR から来られるお客様方に町内を周遊していただくということで考えておりましたが、今度観光振興基本計画の策定を行う中で一つの考え方として思っているのは、道の駅が開業いたしまして、現在白石町に訪れていただく方がかなり増えております。実際この人数というのが県内の立ち寄り場所で 3 番目です。1 番が鳥栖のアウトレット、2 番が SAGA アリーナ、3 番目が道の駅しろいしです。そして実際、今年の 5 月はひと月に 10 万人のかたが立ち寄られました。しかし、道の駅しろいしに来ていただいてもそこで止まってしまっているので、道の駅に来ていただいている方たちに、その後どのようにして町内の周遊していただくかというふうな考え方を少し変えております。JR から来られるお客様の事を周遊されるかと

いう施策については、今のところ具体的な案はございません。今後は道の駅しろいしに来ていただいた方に町内をどう周遊していただくかということを考えていきたいと思っています。

○委員

シェアサイクルの撤退の件で、自転車での周遊がなかなか難しいとは私も思いましたが、須古城とかに行くのにも結構距離が離れていて、自転車どころかバイクでも気後れするので、例えばなかなか難しいと思いますが、極端な話、カーリースのようなものを出すとか、観光地を回る観光バスのような周遊バスを回せないとか、個人的に思いましたので、ご意見としてお話をさせていただきたいと思いました。

○会長

先ほど商工観光課長が申しましたように、昨日から新しい観光振興基本計画を策定する会議を立ち上げました。その中で今の意見も十分に反映させていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

○委員

道の駅に来てくださる方の数がとても多くてすごく嬉しいなと思っています。私も鹿島市のカフェに立っていますが、白石町の観光マップを3種類ぐらい持って行って、鹿島市のものの隣に並べています。鹿島市の話もしますが、「どちらからですか？」というようなお話ができたときに白石町の紹介をします。縫の池も大好きだし稲佐神社も大好きなので、そういうお話をすると「行ってみます」と言ってくださいます。「何分ですか？」とか「どこから行けばいいですか？」と。そういうときにやはり人から人へ伝播するエネルギーはすごいなと思います。一番共振しやすいとか、伝わりやすいというのを体験しています。今の時点で、道の駅に来てくださるお客様に「どちらからですか？」とか声をかけてくださる案内か何かそういう部門とか場所とか、総合案内のようなところはあるのかなと思ってのお尋ねです。

○商工観光課長

道の駅しろいしには情報発信スペースというものを位置づけておりまして、一応道の駅に来ていただいた方にお尋ねいただいた場合は、道の駅の職員がお答えをしているというのが現状でございます。

○委員

映像とかも含めてですかね。

○商工観光課長

スクリーンも一応出していると思います。観光協会が去年の12月できておりますけど、今年度の事業として、デジタルマップ、スマホのアプリですね。デジタルマップの作成に現在取り組んでおります。今年度中にデジタルマップもできるのではないかなと考えております。

○委員

お尋ねをされてからということだと思いますが、こちらから「どちらからですか？」とか「こういうところがありますよ。」ということをお伝えするという意識を持ったときにことが動いていくのではないかと実体験から感じています。ですので、道の駅で働いていらっしゃる方が、白石町の「あそこに行ってほしい！」とか、「あの場所ってすごい、1回体験してほしい！」、「縫の池の水の気持ちよさとか、あの音や風を体験してほしい！」っていう気持ちがあっても、控えめでいらっしゃるのではおっしゃられないかもしれないですが、そこは意識改革ということでこちらから伝える、こちらから発信するというのを、今の時点で意識が変わるだけでできることではないかなと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

○会長

デジタルマップも考えておりますけども、観光協会の事務所が今役場の中にあつて、これを将来的に道の駅の方に持って行って、観光案内所もそこでできればということで今構想がありますので、今の意見を十分に参考にさせていただきながら進めていきたいと思っています。

○委員

今の時点で、道の駅で働いていらっしゃる方がそういう意識を持ってくださると、少しずつ観光案内所ができる前の準備ができるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

今年歌垣公園のツツジの時期に取材に行きまして、とても綺麗でした。お客さんもとても多かったです。毎年取材に行くときに今何分咲きかということを商工観光課に問い合わせをして行きますが、今年は頻繁に開花状況がホームページに上がっていて、まだ見頃が続いているなというのを感じることができました。「まだ綺麗かな。」と知り合いから聞かれたときにも、そのホームページを確認して、「まだ綺麗だよ。」ということで活用できましたので、そういった発信をもっと頻繁にされていくといいかなと思いました。あと町公式 LINE から毎日来ている情報にいつも目を通していますが、開花状況なんかも合わせて LINE でここにアクセスすれば見られますよとかいうのを発信していただいたらもっと観光の誘致になるのかなと思いました。開花状況のお知らせは今年からですか？毎年されていましたか？

○商工観光課長

今年は特に観光協会もありましたので、連携しながらホームページは町の方でしていましたが、観光協会の方でも Instagram 等で情報発信をしていただいております。

○会長

今後もそういった情報はどんどん流していきたいと思っています。

○会長

それでは次、基本目標③ですね。嬉しい楽しい大好き白石資料については資料 3 が 8 ページから 11 ページまで、資料 4 が 8 ページから 12 ページとなります。説明お願いします。

○総合戦略課白石創生推進係主事

1 結婚推進対策の充実では、5 年間で 160 組の成婚数を KPI としていましたが、令和 6 年度の実績は 6 組、計画期間全体の実績は 78 組でした。具体的には、婚活サポート事業の拡充、結婚新生活支援の 2 施策に取り組みました。(1)婚活サポート事業の拡充では、令和 6 年度は婚活イベントを 5 回開催し、総参加者が 52 名で、合計 19 組のカップリングがありました。計画期間を通して定期的な婚活イベントを開催しているため、担当評価では一定の進捗があるとしています。引き続き出会いの場、交流の場を提供し、結婚したい人の希望をかなえるため、今後も事業を継続します。(2)結婚新生活支援については、令和 6 年度に補助金を交付した世帯が 27 件であり、年度を追うごとに申請者数が増加しているため進捗しているとしています。今後も結婚新生活に係る費用を補助することで結婚しやすい環境づくりを推進するため、事業を継続します。

続いて 2 出産支援です。資料 3、4 とともに 9 ページをご覧ください。KPI は、合計特殊出生率を平成 30 年時点の 1.41 から、令和 6 年に 1.50 まで引き上げることとしており、令和 6 年に 1.49 でした。ここでは、具体的に不妊治療制度の拡充、多子世帯への助成の 2 施策に取り組みました。(1)不妊治療制度の拡充については、令和 6 年度の申請件数が 5 件 3 組でした。不妊治療が保険適用になり、町への申請件数が減少していること、県が先進医療の助成を開始したことから、一定の進捗があるとの担当評価です。不妊治療が保険適用となってから令和 6 年度で 3 年であり、町への申請件数が減少していることから事業を終了します。(2)多子世帯への助成については、令和 6 年度も保育料軽減措置を継続し、実績が 15 件でした。対象となる世帯への保育料軽減ができているため、進捗しているとしています。多子世帯への軽減措置を図ることで子育て支援に寄与できるため、今後も事業を継続します。

続いて 3 子育て支援です。10 ページをご覧ください。KPI には、就学前児童親の子育ての感じ方満足割合を令和元年の 41%から令和 6 年に 45%へ、小学生親の子育ての感じ方満足割合を令和元年の 35%から令和 6 年に 40%へ引き上げることとしていました。実績では、令和 5 年度時点の就学前児童親が 43%、小学生親が 36%でした。ここでは具体的に、病児・病後児保育の実施、一時預かり事業等の充実、子育て支援の情報発信強化、子育てに関するワンストップ相談体制の整備、公園施設の充実、切れ目のない子育て支援の実施の 6 施策に取り組みました。(1)病児・病後児保育の実施では、令和 6 年度は 2 か所でのべ 197 名の利用がありました。令和 3 年度から利用可能施設が増え、利用実績も増加していることから進捗しているとしています。今後も事業を継続し、保護者の子育てと就労の両立を支援していきます。(2)一時預かり事業等の実施については、令和 6 年度は 7 か所の利用可能施設でのべ 3,877 名の利用がありました。また、育児サロン事業のゆめカフェでは、10 回の開催で 54 名の参加があり

ました。利用可能施設の拡充ができ、利用実績も増加していることから進捗しているとしています。乳幼児の預かりや子育ての相談、情報交換により子育て世帯の支援ができるため、今後も事業を継続します。(3)子育て支援の情報発信強化では、令和6年度の母子手帳アプリの登録者数が新規54件を含んで477件で、母子手帳交付時・乳幼児健診時等に案内を行い、健診の案内や情報発信に努めました。また、令和5年3月にオンライン相談やオンライン予約システムを導入し、4件の実績がありました。妊娠届時にアプリを案内し、新規登録者数が一定数いること、里帰り妊産婦にオンライン相談が活用できていることから、進捗しているとしています。子育て世帯への情報発信や相談のために今後も必要だと考えられることから、事業を継続します。(4)子育てに関するワンストップ相談体制の整備については、白石町子ども家庭総合支援拠点を設置し、関係機関と連携しながらそれぞれの家庭にあった支援へつなげました。子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点は常に連携して対応・支援ができていたため、進捗しているとしています。相談対応や学校からの情報などを支援につなげるため、更に発展させます。資料4のみ11ページに入ります。(5)公園施設の充実については、令和6年度は除草・芝刈り・樹木剪定・花壇の花の入れ替え・植栽管理、遊具の保守点検・トイレ浄化槽清掃や点検等を行いました。計画期間全体としては、遊具の新設及び更新工事を実施できたこと、また、来訪者の公園に対するイメージを向上させるために植栽管理を実施したため一定の進捗があるとしています。今後も遊具の点検・植栽管理を行う必要があるため、今後も事業を継続します。(6)切れ目のない子育て支援の実施については、令和6年度における子どもの医療費助成が49,471件102,206,628円(1億220万6,628円)でした。また、伴走型相談支援、小学6年生、中学3年生の給食費、無償化を行いました。必要に応じて専門機関と連携して継続的な支援ができていたこと、子ども医療費助成制度の対象を18歳の年度末までに拡充していること、また、進学を控えた保護者への経済的負担の軽減を図ることができていたため進捗しているとしています。安心した育児の実現、保護者の経済的負担の軽減のため、今後も事業を継続します。

続いて4教育環境の整備です。資料3は11ページ、資料4は12ページをご覧ください。KPIをコミュニティ・スクールの導入・継続と教育環境の整備を町内全小中学校で行うこととしました。令和6年度の実績はどちらも町内全小中学校で、計画期間を通しての実績は、コミュニティ・スクールの導入・継続が町内全小中学校、教育環境の整備が町内全小中学校でした。具体的には、KPIと同じく教育環境の整備とコミュニティ・スクールの導入・継続に取り組みました。(1)教育環境の整備においては、小中学校の再編計画のスケジュールどおり進捗しているため、担当評価も進捗しているとしてしました。今後も令和8年度の有明小学校、令和12年度の白石地域新設小学校開校に向けて引き続き事業を進める必要があるため、今後も継続して取り組みます。(2)コミュニティ・スクールの導入・継続については、学校・家庭・地域が協働して「地域と共にある学校づくり」を進めることができていたため進捗しているとしています。今後も地域と共にある学校づくりを進める必要があるため、事業を継続します。基本目標③については以上です。

○会長

ただいま基本目標③についての説明でございました。ご質問等お願いします。

○委員

色々な地方自治体で子育て支援事業にたくさん取り組まれていますよね。相対的なことになってしまうかもしれませんが、他の自治体の子育て支援に比べて白石町がどうであるという評価はできそうですか。そういう視点から白石町の子育て支援に関しての評価とかはできていますか？

○保健福祉課長

白石町が他の市町に先んじて例えば取り組んでいるとか、そういった先進的なものがあるかというところですけど、現在のところ本町が他の市町より抜き出ているということではなく、周りの市町とそこまで変わらないような状況かと思っております。

○会長

この件については、他の市町と比較するというのはしていませんが、よそには負けない程度やっているのではないかなという気持ちはあります。これについて企画財政課長から何か補足はありますか。

○企画財政課長

よその市町よりもするためにはやはり財源が必要ですが、白石町は非常に自主財源が乏しくて、財政力指数が0.33しかありません。あとの分については交付税に頼っているような自治体です。近隣の市町と比較すると、いろいろ意見をいただくのはやはり給食費の無償化です。非常に頭が痛いところでございまして、現実的な話をしますと、小学校6年生と中学3年生はもう助成をしています。当然物価の高騰についても、町費の支出はあります。ただ全体に対して助成するという話になると、毎年1億を超える額を出せるのかということで、不可能であると町長にもご理解いただいておりますが、今そういう状況でございます。

○保健福祉課長

佐賀大学医学部の看護学生や保健師の卵の人たちが、市町村に実習に来られます。今月も、佐賀大学医学部から実習生を迎えました。実習担当の方とお話すると、白石町は各市町と比較しても乳幼児健診等が非常に手厚く、丁寧に検診を行っているため、実習先として非常にいいというお褒めの言葉をいただいたところです。そういった数字には表れないようなところは評価できるのかなと思っております。

○委員

失礼ですが、それは子育てをしている人の意見ではないですよ。施策をいかどうか判断するのは、財政とか全然気にしない普通の人です。今話を聞いていると違うのではないか思うことがあるので、もう少し町民の視線から見た評価が必要ではない

かという気がしました。

○会長

なかなか評価がしにくいという点もありますが、むしろ他市町に負けないぐらい取り組んでいるということも思っておりますし、こういったことをしているよという PR の方もしていかなければならないのかなと思います。また、さっき言われた評価の方法も考えていかなければならないというふうに思います。

それでは最後です。基本目標④つながる！温もる！かがやく！しろいし！については、資料 3 が 12 ページから 14 ページ、資料 4 が 13 ページから 15 ページになります。説明をお願いします。

○総合戦略課白石創生推進係主事

1 町民協働によるまちづくりでは、地域づくり協議会の設立数を 5 年間で 8 か所、NPO 法人の設立数を 5 年間で 3 件との KPI を掲げていました。地域づくり協議会については、令和 6 年度の設立数はゼロですが、令和 3 年度に須古地区、令和 4 年度に六角地区の協議会が立ち上がったため、計画期間を通した実績としては合計 2 か所です。NPO 法人の設立数は、令和 6 年度は 0 件ですが、令和 2 年度に 1 件、令和 4 年度に 1 件で合計 2 件でした。ここでは具体的に、地域づくり協議会の設立支援、NPO 法人・CSO 活動の支援の 2 施策に取り組みました。(1) 地域づくり協議会の設立支援では、令和 6 年度には有明地域での準備委員会や実証実験、設立済みの 2 協議会の活動フォロー、活動交付金として須古地区に 339,300 円、六角地区に 351,300 円を交付しました。地域づくり協議会設立に向けて準備委員会を実施しているため、進捗しているとしています。今後ますます地域の問題を地域住民が解決する必要がある状況が発生すると考えられるため、事業を継続します。(2) NPO 法人・CSO 団体の活動の支援については、令和 6 年度はさが未来アシスト事業、地域づくり団体設立・活動支援事業を活用し、3 団体の事業支援を行いました。担当評価は、CSO の活動が行われているため進捗しているとししました。行政だけではできない取組に対して支援する必要があるため、今後も事業を継続します。

続いて 2 安全・安心で快適な住みよいまちづくりです。資料 3 は 13 ページ、資料 4 は 14 ページをご覧ください。KPI には、自主防災組織の組織率を 5 年後に 100% としていましたが、最終的には令和 6 年度で 44.8%、27 組織でした。具体的には、自主防災組織の組織化推進、「自然災害に備える」・「快適に暮らす」住まいづくりの 2 施策に取り組みました。(1) 自主防災組織の組織化推進では、公民館や老人会等に対する防災出前講座の実施、自主防災組織に対するフォローアップ講座、組織結成のための助言・指導を行いました。災害の経験が少ない地域では意識が低いという問題もありますが、防災意識が高まり自主防災組織の設置につながったため一定の進捗があるとしています。減災対策は今後も必要であることから、事業を継続します。(2) 「自然災害に備える」・「快適に暮らす」住まいづくりについて、令和 6 年度は住宅敷地の嵩上げが 2 件、住宅基礎の嵩上げが 1 件、介護保険による住宅改修が 92 件 7,255,048 円

(725 万 5,048 円) でした。申請がなかった事業に関しても周知はできたこと、高齢

者の在宅生活に寄与できたことから一定の進捗があるとしました。今後も住宅の安全のため、また高齢者や障害者が安心して生活するために事業を継続します。

最後に、3 誰もが活躍できるまちづくりです。資料 3 は 14 ページ、資料 4 は 15 ページをご覧ください。KPI には健康体操サロン数を令和 2 年の 29 か所から令和 6 年に 35 か所まで引き上げること、シルバー人材センター年間登録者数を 5 年後に 120 人にすることを挙げました。最終的に、健康体操サロン数は令和 6 年に 30 か所、シルバー人材センター年間登録者数は令和 6 年に 104 人でした。この項目では、具体的に生涯現役としての活躍促進、女性活躍の推進、地域団体によるつながり強化の 3 施策に取り組みました。(1)生涯現役としての活躍促進では、令和 6 年度は通所サービス事業 B、介護予防普及啓発事業、シルバー人材センター運営補助金、老人クラブ活動等社会活動推進事業、生涯学習講座、夏の漁村・民泊体験、プチキャンプ体験を実施しました。長寿社会課、生涯学習課ともに一定の進捗があるとしています。今後の方針は、長寿社会課では高齢化率が年々高まっていることを受け、高齢者が生涯現役として活躍していく必要があるため、事業の継続としています。生涯学習課では、更に発展させるとしています。(2)女性活躍の推進では、令和 6 年度は男女共同参画みらいネットの会への参加、有明地域づくり協議会設立準備委員会への女性参画の呼びかけ、白石町防災会議の委員定数を 22 名以内から 24 名以内へ改正したことによる女性の参画促進、女性団体連絡会の意見交換会を実施しました。県内の自治体と比較しても審議会の女性割合が高いため、担当評価は進捗しているとしています。今後は更に発展させ、各女性団体の活動支援を行っていきます。(3)地域団体によるつながり強化では、令和 6 年度は女性団体連絡会総会及び女性フェスタの開催を支援しました。女性団体連絡会の活動支援を行ったため、担当評価は進捗しているとしていますが、今後は事業内容の見直しを行い、施策の統合を検討します。基本目標④については以上です。

○会長

基本目標④についての説明でした。ご質問等お願いします。

○委員

地域づくり協議会の話です。私も六角の地域づくり協議会のメンバーですが、今協議会があるのは六角と須古ですよね。有明が進んでいるところですが、他の福富地域とか白石地区、北明地区がこういった状況を知りたいです。

○総合戦略課長

これは委員もご存知のように、順番で言うと須古、六角という順番に立ち上がってきました。有明地域は準備段階に入って、足かけ 3 年目です。昨年是一年準備段階のところでイベントをしたためにそこでリスタートのようになってしまった部分もありますが、有明全地区で 1 つの協議会ということでまとまりつつあり、本年度中に協議会が設立されると思います。また他の地区ですが、現在北明地区に着手しており、本年度中には間違いなく準備委員会が立ち上がるといった状況です。残りの福富地域、白石地区ですが、この 2 つについてはまだ未着手です。この 2 つに着手するにあた

り、例えば福富のように旧町で区があって、その区のくくりが大きいところは協議会の必要性を感じていない方が多いため、そのような地区に着手していくというところが今後の課題点なのかなと思っています。

○委員

今、私も六角地区地域づくり協議会のメンバーであると同時に区長もやっていますが、区長会とは別に自由な協議会、いろんな活動を自由にやれる協議会として団体が1つ増えるっていうのはものすごく大切ななと思っています。この間の協議会総会時にも、区長には言えないけど協議会の皆さんには言えるねという状況があったので、色々な意見もそこで拾えるなど。区長だけの集まりのときにも言えなかったけども、また違う団体として、協議会があればそのその地区で住んでいる人たちがいろんな意見を持てますので、そういった協議会、別の団体があるといいなというふうに思っていますので、ぜひ推進していただければと思います。

○会長

全体的にでも結構ですが、言い忘れ等があればお願いしたいと思います。

○委員

全体を通して言いたいことがいくつかあって、前回までの委員と三夜待仲間ですので時々お話しをすることがありますが、時々この会議の話になります。これで本当に人口減少を止めることができるのかっていうところで意見が一致しました。内部評価のところで、一定の進歩があるとほぼ書いてありますが、一方では、KPIとして数値化されていますよね。数値化されたのは第2期からだったと思いますが、この数目標値に対して増えているのか減っているのか、上回っているのか届いてないのか。その検証をして、なぜ届いていないのか、なぜ届かなかったかという理由を見つけないといけないかなと思いました。事業を継続しますと書いてありますが、これで本当に人口減少が止まるのかという話をしていました。今回もやっぱり一定の進捗があるのか書いてない。KPIを満足しているか、下回っているとなぜか、どうしたらいいかというのが欠けている気がします。

もう1つ意見があって、抜本的な改革テーマが必要ですよって話しをしています。白石町と江北町って何が違うのでしょうかね。江北町って人口減ってないよね、って話しています。それに対して全くここに出てない気がします。地域的にはあまり変わらないし、目立つような観光資源もない。違うのは駅だけ、モビリティですよ。多くの人が多分働いている。どこで働いているかっていうと、やっぱり福岡だったり、佐賀市内だったりする。そこには車で行く人もいますが、やはりJRを使って行きます。江北町に行くと、特急が停まりますよね、博多までの。その違いじゃないのっていう話はよくしています。それに対しても何か触れてほしいですが、触れてないなって気はしていました。それがちょっとここで、今回この第2期を総括するにあたって、何か意見、主張は考えてないのかなっていう感じがしています。私は町政と全く関係ないところで生きていますので、何かこれに対してコメントがあればよろしくお

願います。

○総合戦略課長

まず、評価の方法が「一定の進捗」とかそういった評価にとどまっているというのを私も感じております。KPIの数値目標であるとかいうのを、もう少しシビアに考えていく必要もあるのかなと。しっかりと目的に沿ったようなKPIの評価の数値の出し方を、私達も心がけていかなければならないというのが1つでございます。江北町との比較のお話もありましたけれども、一番先に私達がイメージするのが、地域公共交通のあり方っていうのがそもそも違うという話で、この部分の見直しというのを今地域公共交通については全体的な見直しの作業に入っております。今、基本計画である地域公共交通基本計画の策定に入っているところで、主要な駅への接続とか、あるいは少し踏み込んだところで特急駅への接続ですとか、そういったところも少しばかり念頭に入れたところで計画づくりをしていこうと思っております。それと、ちょっと施策的なものですが、総合戦略課では人口減少対策としての住宅取得支援ですとか、移住・定住に関しては、ここ2、3年で事業の浸透があって、効果が出てきたなと思います。ただ、これ町の売り出し方として、移住してくる人口というのを増やすという意味では、子育てであるとか、住宅取得支援であるとか結婚の支援であるとか、トータルのパッケージとして売り出していくというのが1つの考え方として持っておかなければ、なかなか引き込むことができないのかなというところで思っております。

○会長

本当にごもつともなご意見でございまして、非常に耳が痛いところでございます。さっきご指摘いただいたことですね。KPIの設定の仕方とか、それが達成できなかったことの分析、そしてまた江北町の人口が何で減らないのか、その辺の分析等ももう少し具体的に今後進めていきたいと思っております。

○委員

商工会でイベントをやって、それで気づいたことがあります。これは町に対してのお願いになりますが、観光客の方がたくさんおいでになる中で、観光地もちろんマップの作成もそうですけれども、目に当たるところにこういう名所があるよ。どんな意味合いでどんなものがあるよ。というような大きなマップみたいなものが、すぐわかるような形で道の駅の外側とか、駅とかそういうところに置いてほしいということが1つありました。また、トイレは洋式がほとんどなくて困りました。マイランド公園はトイレが綺麗に改装されていたため、「綺麗になっているね。」というお言葉を皆様方からいただくことができましたが、白石町全体では、ほとんどトイレが不足していて、和式も多くて困りました。私も障害者ですので特にそう感じましたので、よろしく願いいたします。

○会長

トイレの洋式化についても、一度にできないため、漸次的に整備しようとしている

ところでございます。できるだけ早く行っていきたいと思います。それと、もっとわかりやすい観光マップについても、現在ありはしますが、そういった声があればまた観光協会でも一緒に検討していく必要があるかと思います。

○委員

人口ビジョンの件ですが、このまち・ひと・しごと創生総合戦略が始まったのが、第1期が平成の27年ですね。そのときの人口シミュレーションと、実際今がどのくらい変わったのかなというのが気になります。例えば、その当時から見たときに、2060年にはこのぐらい人口減りますよという試算が出てきたと思いますが、今回第2期が終わって、それがどれだけ改善できているかというのがあれば参考になるような気がします。それはわかりますか？

○総合戦略課長

私の記憶の中で申しますと、当時の人口ビジョンとして出したものとほぼ同じ推移をしています。前回、令和2年10月1日の国勢調査のときの人口減少率が7.89%で、県内ワーストでしたが、ずっと7.5%から7.8、9%ぐらいの人口減少で推移していくというような形になっています。しかしながら、ここで行政のやっていく施策によって、もちろん民間の力も借りますけども、それによってこれを5%台中盤にしていくと。年間に100人取り戻すというような目標を立てていますが、それによって7%台後半だった人口減少率を5%中盤まで持っていきたいということです。私の記憶の中で、当時からはほぼ同じ推移かと。

○委員

100人増えたらもっと差が出てきますよね、将来像として。

○総合戦略課長

もっと積極的にいったら、これをもちろん4%、3%にする施策というのは今から打っていかなければならないということです。

○会長

資料等あればまた後でお示しをしてください。

○委員

人口を減らさないためにはやはり住宅を建てないといけない。現状、ご存知のように金利も材料費も上がっています。今うちに住宅ローンのお申し込みをされてらいる若い方は、大体平均で3000万円から5000万円、返済期間50年で組まれるのが当たり前になってきておりまして。となると、今からどんどん金利が上がっていくとお客様のご負担も増えていくというのがもう目に見えていて、そういう時代になってきます。先ほど財源の話とか、子育てのパッケージとか支援の部分でもお話をいただきましたが、財源の問題もあるかもしれませんが、白石町に住宅を建てようというふうな若い子たちにはある程度の支援をしないと、住宅ローンが組めない世代が増えて

きているような状況なので、そういう時代になってきているということを片隅に置いていただいて、施策の方と一緒に考えていければとは思っております。

○総合戦略課長

まさに言われている課題はそうだと思います。借り入れの金額が3,000万円から5,000万円というお話がありましたけれども、おそらく2005年当時からすると、住宅取得支援の申請を見ていると、建築費自体が1.4倍から1.5倍ぐらいになっております。建築費もすごく上がっております。全国的にはメーカー受注の平均の坪単価というのが100万円台になってきたような時代ですので、そういったところの若い世代の方を支援するという意味でも、住宅取得支援として100万円の補助を行っています。これは県内でもすごく手厚い方です。そして土地を購入されないという方、すなわち親の土地で隣居・近居が白石町内では非常に多いです。そういった生活様式になってまいりましたので、土地の購入がない方にも50万円の補助を行っています。当然人口減少問題を解決するには、やはり住居を建てていただかないと、あるいは不動産物件を呼び込まないと、あるいは町営での住宅の拡充というような住宅政策をとっていかなければならないわけですので、この辺りの支援制度というのは維持、また拡充していく必要があると思っております。

○会長

それでは時間もだいぶ経過しましたので、その他ご質問・ご意見等ありましたら事務局の方にお尋ねをいただければと思いますので、よろしくお願いします。それでは続きまして、協議事項(3)第2期(令和2～6年度)の総合戦略の効果検証シートについてです。事務局から説明をお願いします。

○総合戦略課白石創生推進係長

委員の皆様には、令和6年度までの実績と各部署による内部評価を踏まえて、効果検証をしていただきたいと思います。大きく2点にわかれております。一番目が目標ごとの評価となります事業評価の欄に、A、B、Cのどれかを記入いただきます。AはKPI達成に有効であった。Bは有効であったとは言えない。Cはその他となります。KPIの達成度合いや目標達成のために合致した取り組みであったか、そういった点から判断していただきたいと思います。なお、政策に対するKPIがないので評価が難しい場合などは、その他を選択隠していただくようお願いします。また、可能でしたら、A、B、Cの評価をされた理由を、意見等の欄にご記入いただけたらと思います。ご覧の通り、具体的な政策は全部で41ございます。委員の皆様には大変恐縮ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。それから最後のページですけども、2番目として、総評となります。全体を通して自由意見をご記入ください。ここはどんな内容でも結構ですのでよろしくお願いいたします。なお、提出いただきました評価については、取りまとめを行って、総合戦略に反映し、町ホームページにて公開させていただきます。また、効果検証の回答ですが、手書きでも提出できますが、お配りしている2次元コードをスマホで読み取っていただきますと、同じ内容の画面

が出てきます。こちらの方で試した分ではスマホの方からが短時間のうちにできました。どちらかやりやすい方で回答をお願いできたらと思います。なお、回答期限は8月11日(月)としております。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。それでは先ほど説明ございましたように、8月11日(月)までということで、期間が短いですが回答いただきますようよろしくお願いいたします。それでは協議事項(4)第3期(令和7～10年度)総合戦略の一部改訂について、に入ります。事務局から説明をお願いします。

○総合戦略課白石創生推進係長

改訂の協議に入る前に、第3期総合戦略に掲載していた第2期の事業実績や内部評価を今回、先ほど報告した令和6年度の実績を踏まえたものに更新しておりますので、お知らせさせていただきます。第3期総合戦略の4ページから8ページのところをご覧ください。総合戦略の4ページ8ページのところになります。赤字で表記している箇所が、令和6年度の実績を踏まえ、更新した箇所となります。また先ほど説明いたしました効果検証ですがその集計結果をもとに、KPI達成の評価についても今後更新をかけさせていただきます。各項目の下の表の右端の部分ですね、KPI達成の評価と書かれている部分になります。こちらの方を更新させていただくこととなります。それでは、重要業績評価指標 KPI の一部改正に参ります。総合戦略の16ページをご覧ください。1の白石町魅力発信のところになりますが、今回 KPI として設定していた町公式 LINE 登録者数の数値目標について改訂の申し出がっております。これについては担当課より説明させていただきます。

○総務課長

町公式 LINE 登録者数の KPI についてです。具体的な施策としては、町民に向けた町の魅力発信という部分です。当初、町公式 LINE は令和6年度末で約900人に登録いただいていたため、その倍増ということで2,000人を目標としていましたが、今年度の国の補助事業の採択を受けまして、町の公式 LINE の機能の拡張事業を実施する予定としております。この事業では、町民に向けた情報発信の強化を図るとともに、DXの推進を目的としておりまして、事業の目標として、令和11年度までに LINE 登録者数を、町内全世帯の方に登録をしていただきたいという意味を込めまして、世帯数とほぼ同じ7,000人を令和11年度末までの事業目標としております。その理由として、LINE は若い方から高齢者までほぼ全ての方が利用されており、全世帯の方に LINE で情報発信をすることが可能となれば、町からの行政情報、必要な情報の提供、受け取りが時間やコスト面で効率的に行えるようになり、全世帯の方に登録をいただければ、例えば回覧板とか、全世帯の配布物の削減が可能になるかと考えているところでございます。令和11年度末の数値目標を7,000人としておりますので、本計画における令和10年度末の数値目標を、その過程として5,450人に修正させていただきたいと思っております。

○会長

ただいま説明ありましたように、4 ページから 8 ページまでは、令和 6 年度の実績が出たということで、実績値に合わせます。16 ページの町公式 LINE 登録者数の数値目標を 2,000 人から 5,450 人に変更ということで承認を受けなければなりません。改訂について、賛成の方は挙手をお願いします。賛成多数ということで、これについては承認をされました。ありがとうございました。それでは本当に長時間に渡りましたが、以上で次第 7 協議事項については終了いたしました。進行を事務局にお返しします。

○総合戦略課長

それではその他の項に入ります。私の方から事務連絡をさせていただきます。本会議の資料議事録並びに今回訂正となりました第 3 期総合戦略につきましては、ホームページで公表させていただきます。ただ、公表にあたり個人の名前は出さないということにしています。表記については全て「委員」になります。数値や語句の言い間違いなどを修正いたしまして皆様にご確認のためにお送りさせていただき、その後公表したいと思っております。この推進会議につきましては、今年度は本日 1 回のみの御予定でございます。もし必要に応じて開催することになりましたらご連絡を差し上げたいと思っております。こちらの方からは以上でございますけれども最後に皆様方の方から何かございましたらお受けいたしますが、よろしいでしょうか。他になければこれにて会を閉じさせていただきます。以上をもちまして、令和 7 年度第 1 回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会いたします。本日は長時間にわたりまして誠にありがとうございました。